

【2】 東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 2016. 9. 13.

稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ
帰りは山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした



山科 西野山市街地から眺める稲荷山



山科側の稲荷山山頂 三の峯参詣道



もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩きはじめた稲荷山。
山科側の山中は 緑の林に包まれた静かな空間の中を稲荷山山頂三ヶ
峯への小道がつづく。
昔から伏見稲荷への参詣する多くの人々がたどった道。
霧雨けふる林の中に幾つも名も知れぬ祠や塚そして行場がポツと現れ
てくる 摩訶不思議なワンダーランド。
神が集う山 今はやりのパワースポットか?
初めて山科側からたどる稲荷山への道は
この山が伏見稲荷の御神体山であることを随所で体現させてくれる。
霏がかった林の中に 赤い鳥居が正面向こうに浮かんでいる。
稲荷神が降臨した稲荷山山頂 三ヶ峰への参道の入口である。
何十年ぶりかの三ヶ峰 随分変わっているようですが、 今はどうなっているのか・・・・



京都 東山三十六峰越 walk をしようとなった本年6月 山科西野山を歩いた記録です。

このwalk で知った山科の歴史などに触れていますので、ご参考まで

【和鉄の道・Iron Road】 by Mutsu Nakanishi

◆ 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00htm>

稲荷山概要 稲荷山と伏見稲荷 & 稲荷神の伝承 稲荷信仰に潜むと土着の神

1. 稲荷山横断ハイク walking Map

稲荷山横断ハイク walking Map 伏見稲荷大社へ ← 稲荷山三ヶ峰 ← 山科に横登山口から



2. 稲荷山 稲荷神降臨・稲荷信仰の伝承

◆ 伏見稲荷大社と稲荷山 稲荷神が降臨した三ヶ峰 稲荷信仰の象徴 赤い千本鳥居と稲荷山の杉



伏見稲荷大社



七条大橋周辺より 鴨川越しに眺める東山の南端 西野山・稲荷山 2016.9.13

伏見稲荷大社は京都東山36峰の南端に位置する稲荷山三ヶ峰(三ヶ峰)を「稲の穀霊神・稲荷大神」が宿る山・神体山とする神社で、稲荷山の麓に本殿があり、稲荷山全体を神域とする。全国に約3万社あるといわれる稲荷神社の総本宮である。旧称は稲荷神社。式内社、二十二社の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁に属さない単立神社。

稲荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する。稲荷山三ヶ峰の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」・「四大神」とともに、五柱の神を一字相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊賀具奈公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峰(稲荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。それには富裕だった伊賀員が、お餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには、稲が生え(稲成りいなり)た。伊賀員の子孫は、伊賀員の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされている。

◎ 稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされ、伏見稲荷大社では神楽を舞う巫女の頭にも、杉の葉が飾られる。



稲荷山の三ヶ峰 伏見稲荷大社上社 2016.9.13



◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://amago.hatenablog.com/entry/2014/08/01/125701> ほかり

伏見稲荷大社は稲荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する総本宮。稲荷山三ヶ峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」・「四大神」一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神 の五柱がまつられ、これら五柱の神々の総称が「稲荷大神」とされている。稲荷神は古く一柱の神のように伝えられていたものが、平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神)が祀られ、やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の形になったと見られてる。



伏見稲荷大社 本殿を眺める

稲荷山の山上 三ヶ峰に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稲荷山の神奈備信仰とも結びついており、今でも一ノ峰(上之社神蹟=末廣大神)、二ノ峰(中之社神蹟=青木大神)、三ノ峰(下之社神蹟=白菊大神)の三ヶ峰への信仰を色濃く残っています。(御神蹟とは、太古に神が宿っていた場所といい、また、三ヶ峰の大神は稲荷大明神の神明化された神々とされている。)

また、三ヶ峰の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現在の大神の見解では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能売大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四大神については由緒不明であるものの、「元は稲荷神と何らかの深い関わりがある地主神、あるいは土着的傾向が濃厚」とし、五柱の神を祭神として 伏見稲荷本殿に 一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



一の峯 上社



二の峯 中社



間の峯 荷田社



三の峯 下社

稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴

弘法大師と「稲を担う老翁」 稲荷神が 京都東寺の守り神

「稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴」
稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊侶具奉公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峯(稲荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。
その理由は伊侶具がお餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには稲が生えた。(稲成りいなり)伊侶具の子孫は 伊侶具の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされており、稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされている。

そんなイメージで見るからでしょうか、稲荷山の道筋の杉林は心なしか、密集していて林が暗い。異次元の空間の感じが漂う。霧雨の林の中 雨粒は落ちてこないのですが、蒸し暑くポケットの地図も内から濡れて びしょびしょです。

119番通報ポイント番号【3】 11:51

この周辺は西野山 山科区に属している。
一方稲荷山全体は伏見区で、正確には東西に並び連なる二つの山。
伏見稲荷の神域も稲荷山。
しかし、ほぼ同じ高さの山が連なっていて 全体を稲荷山と親しまれている

伏見稲荷大社・間の峯 荷田社 と 荷田氏

伏見大社の由来についての伊奈利伝承に対して、稲荷神の顕現を「稲を担う老翁」に求める伝承があり、伏見稲荷で奉祀とともに神官を勤めた荷田氏系の伝承とされている。

稲荷大明神流記(南北朝時代)による(大意)
『弘治7年(816)4月の頃、弘法大師が紀州田辺の宿で身の丈八尺あまりの異相の老翁に遇った。
(これを神と知った)大師は、鎮座国家のため密教経路の道場・東寺において神の加護を待つと告げると、老翁はそのみざりには必ず参会して大師の法命を守るであろう、と答えた。
降って弘治14年(823)4月13日、彼の紀州の老翁が、稲を担い杉の葉を掲げ、二人の女性と二人の童子をともって東寺の南門にやってきた。
大師は喜んでこれを歓待し、道僧もこれに習った。
老翁は、しばらく東寺の家に寄留していたが、その間大師は東寺の檀山に勝地を定めて17日間鎮座し、稲荷の老翁を神として祀った』とある。

同じような伝承が幾つかほかにもあり、東寺の鎮座神として現在でも伏見稲荷大社と東寺とは深い関係が保たれているという。

稲荷大神が稲荷山三ヶ峰に鎮座した際最初に奉仕したのが、荷田氏と言われ、間の峯の荷田社には荷田氏の祖神が合祀されている。

インターネット 検索まとめ転記

二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社 2016.9.13.

伏見稲荷大社/三の峯/山科折上神社 稲荷塚 を結ぶ稲荷信仰のレイライン

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイライン 1/2

伏見稲荷・稲荷山・折上稲荷、3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいる
711年(和銅4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが折上稲荷神社境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神とされている。
伏見稲荷神社・稲荷山・折上稲荷の3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいて、これも折上稲荷神社が信仰を集める所以でもある

西野山古墓 花山稲荷神社 折上稲荷神社 伝坂上田村麻呂墓 稲荷山 伏見稲荷神社 伏見稲荷大社 千本鳥居 京阪伏見稲荷駅 稲荷駅

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイライン 2/2

稲荷の大神降臨伝承地 折上神社

伏見稲荷の奥の宮とされる折上稲荷神社 左の森が稲荷塚 2016.9.13. 12:35

折上稲荷神社境内の稲荷塚(京都市史跡)は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神(田の神)がお祀りされた聖地。
後の711年(和銅4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神とされている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとめているといわれる。

稲荷信仰と結びついた鍛冶伝承 山科花山稲荷の稲荷塚



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



【スナップ写真抜粋 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ】

東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 2016.9.13.





東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク を終えて



稲荷山 伏見稲荷大社 ミケ峰奥社参詣道 四つ辻から眺めた京都市街地 2016.9.13.

久しぶりの稲荷山 初めて歩いた伏見稲荷参詣道稲荷山横断 walk

霧雨が時折降る曇天の天気でしたが、神が宿る山稲荷山の雰囲気が一層強く感じながら 歩けました。

◎ もう何十年ぶりか？ 久しぶりに歩いた稲荷山。私の遠い記憶の山とは随分 イメージが違う。知っているようで知らなかった山に。

山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂ミケ峰への小道がつづく。

稲荷神の化身としての神さんの祠や塚そして行場が数多く散在する摩訶不思議なワンダーランド。

一体幾つあるのだろうか？ と。 でも今は山中の自然に溶け込んで、やりのパワース ポットに？

初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれました。

また、京都側 伏見稲荷神社本殿からミケ峰に続くにミケ峰奥社 お山巡りの参道にも たくさんの塚や祠。

もとは朱の鳥居を含め、古くからの稲荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。

昔 登った頃と随分イメージが変化して、戸惑いも。本当にすごい

赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。

さすが、日本一の外人観光客のスポット。 平日にもかかわらず ミヶ峰への参道はほとんどが外人の観光客。 たくましく山を登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……………。

- ◎ 知らなかった山科から稲荷山山越えすれば、もう これで 稲荷山がわかると思っていましたが、山中尾根筋や谷道に張り巡らされた参詣道の多さとその随所にある塚・行場。まだまだ 知らぬところが 数知れずあると。
- そればかりか、稲荷伝承も色々。稲荷大社と杉との関係も初めて。 東寺・空海と伏見稲荷との関係も興味ぶかい。やっぱり 自然信仰・土着信仰が、稲荷大神の奥深さの源になっているのだろう。
- ◎ 稲荷山の稲荷大神は農耕豊穰をもたらす開拓神。開拓神として ひょっとして 稲荷山の鉱物資源との関係もあるかもしれぬと
- 山中の峯・土 そして塚や行場にある伝承等々 歩く先々で痕跡を見まわしましたが、見つからずでした。おかげで 静かな山中のあちこちを眺めながらのWalk 本当に面白い山。
- ◎ 40数年前 伏見稲荷大社に数多くある摂社・参拝所のどこかで、「開運のだるま」を受け、お礼参りをした記憶。訪ねてみようと思いましたが、開運達磨を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のwalk で、終わりにせず、また ちょくちょく 訪ねよう……………。

霧雨が折頬をなでる曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。

2016.9.13. 鴨川七条大橋で

鴨川越しに東山を眺めながら by Mutsu Nakanishi

京都 東山三十六峰越 walk 2016.9.13.

- 【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberiishi00.htm>

- 【2】東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承のミヶ峰から伏見稲荷大社へ

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

- ◆ 京都 東山三十六峰越 walk 総合動画 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610higashiyamagoe.pdf>

【1】滑石街道を歩く 【2】稲荷山横断ハイク 2つの動画を1つのfile に

参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

1. 京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

- 【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

京都にうれしい古道散歩道の発見 府道118号線 今熊野勤修寺線 大石内蔵助が山科から祇園・伏見へ通ったという古道

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberiishi00.htm>

- 【2】東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承のミヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

掃りは山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

2. 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

1. 今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 假夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !! NHK BS 英雄たちの選択 「衝突! その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」より

2. 京都山科 西野山walk 主要訪問先案内 山科 西野山walk 西野山周辺の古代伝承

3. 京都山科 西野山walk

3.1. 坂上田村麻呂墓を訪ねる

3.2. 稲荷伝承の折上稲荷

3.3. 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 3.3. 勤修寺 回遊式庭園の花菖蒲と睡蓮見学

4. 坂上田村麻呂創建の京都東山 清水寺に アテルイ・モレの神を訪ねる

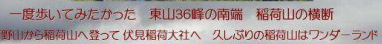
3. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

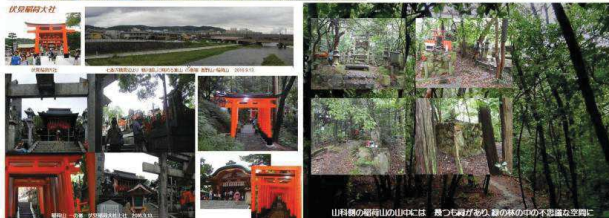
1. 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道(醍醐街道)
2. 稲荷神降臨伝承の稲荷山三つ峰 伏見稲荷大社の参詣道をたどる



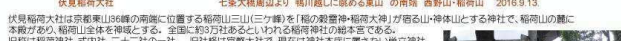
稲荷神降臨信仰の稲荷山 伏見稲荷大社の参道道をたどる



山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド

[illegible]

稲荷信仰の象徴 赤い千本鳥居と稲荷山の杉



伏見稻荷大社 京都府京都市東山区 7条入稻荷山周辺より 鴨川に下る際の東山 の中路 西野山・稻荷山 2016.9.13.

稲荷大明神の神格化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する。稲荷山三峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、(佐田大神)を中社、「大宮能登大明神」を上社に据え、明和8年(1799年)に本殿に祀り定めた5柱の摂社、「田中大神」、「西大神」とともに、五柱の神を「宇相殿(一つの社殿に合祀する所)」に祀っている。

稲荷神社の起源は「山城国温土記」の文に残されていて、711年（和銅4年）伊賀良公が、勅命を受けて伊賀山（今・稲荷山）に三柱の神を祀ったことに始まる。それは雷が降った伊賀良が、お祈りを今夕の如くしたところ、白鳥が舞い上って喜び去り、稲荷山に舞い降り、そこには「稲が生え（稲成り）なり」と。伊賀良の子孫は「伊賀良の祖を偲んで、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされている。

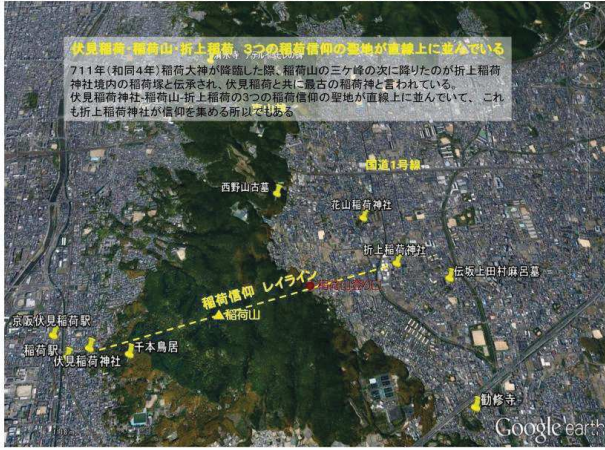
◎ 稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされ、伏見稲荷大社では神楽を舞う巫女の頭にも、杉の葉が飾られる。



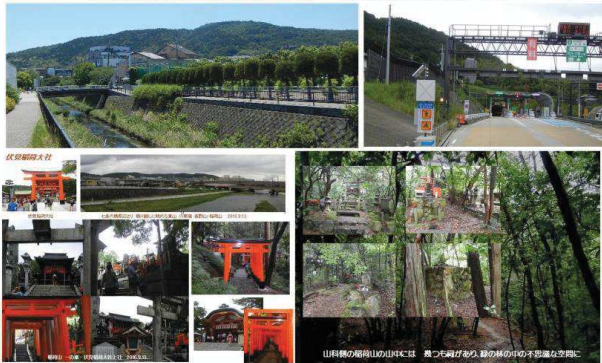
2/2



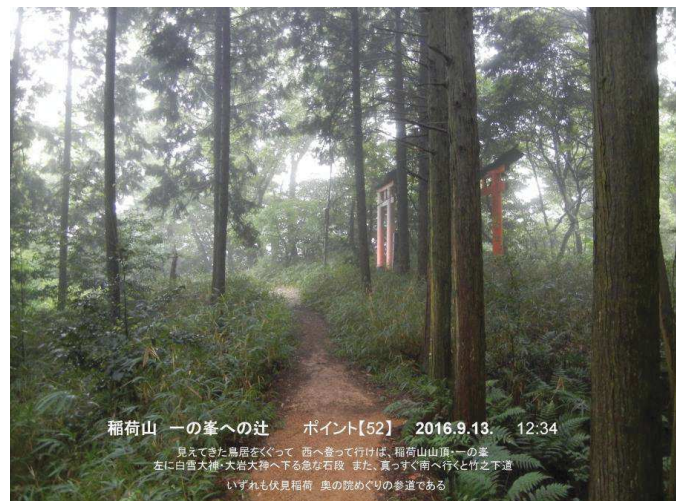
◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稲荷・稲荷山・伏見稲荷大社を結ぶレイライン 1/2



【2】 山科の帰りは 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.
山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド



もう 何十年ぶりか？ 久しぶりに歩いた稲荷山。山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がづく。昔から、伏見稲荷への参詣する多くの人がたどった。神さんの祠や塚そして行場が数多く散在する摩訶不思議なワンダーランド。一体幾つあるのだろうか？ 今やりのパワースポットか？ 初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。
また、京都府 伏見稲荷神社本殿から三ヶ峰に続く三ヶ峰神社 奥山道の参道は切ることなく続くおぼろげに数々の参道トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもまた、平日にもあやうく。三ヶ峰への参詣を待つ人々にはおぼろげに参詣の光景。さすが、日本一の参詣客の多いスポットに、たくましく山を登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……。
悪雨は特折期をなでる嵐天でしたが、意図の山科側から京都市内街への稲荷山横断ができました。



伏見稲荷大社



伏見稲荷大社



七条大橋周辺より 鴨川越しに眺める東山の南端 西野山・稲荷山 2016.9.13



稲荷山一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13



一度ぜひやってみたかった東山三十六峰 東山越 & 伏見稲荷参詣道の稲荷山横断walk

- ◎ 滑石街道 東山滑石越 京都にうれしい古道の散歩道 発見でした。曲がりくねった狭い道の両側にびっしり今熊野の家並みが峠まで続く。古い時代から住み継がれてきた生活道路。びつりの東山越。それも 東山通今熊野から東山を登るといふより、ぶらぶら歩きで約30分で峠に。また、約30分で山科の街へ。 京都と山科がこんなに近とは……。逆に気分が東山の麓の大きな山にも気が付きました。観光客の雑踏もなし。車にも邪魔されず。山から眺める景色も独り占め。昔も今もずっと 車に邪魔されずに歩ける庶民の道「滑石街道」。
- ◎ 何 何十年ぶりか？ 久しぶりに歩いた稲荷山。私の遠い記憶の山とは随分 イメージが違う。知っているようで知らなかった山に。
- 山科側の山中は 蒼蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がつく。稲荷神の化身としての神さの神や道として行場が数多く散在する異国不思議なワンダーランド。一体何をするのだろうか？ でも 今は山中の自然にだけ集中。今はやりのパワースポットか？
- 初め山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。また、京都側 伏見稲荷神社本殿から三ヶ峯に続く三ヶ峯神社 お山巡りの参道にも、たくさんの塚や祠。もとは朱の鳥居を含め、古くからの稲荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。登った後と随分イメージが変化して、戸惑いも、本当にすこい。
- 山科トンネルが埋められ、参詣する人の賑わいもさすがに「日本一の外人観光客のスポットに」。平日にもかかわらず 三ヶ峯への参道をまわっている人はほとんどが外人の観光客。たぐいまれい山を歩いている外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……。知らない山科から稲荷山へ越えれば、もう これで 稲荷山がわかるかと思いましたが、山中の尾根越や谷道に張り巡らされた参詣道の多さとその随所にある塚・行場。まだまだ 知らぬところが 数知れずあると。そればかりが、稲荷伝承も色々。興味深い。稲荷大社と山科との関係も初めて。東山・空堀と伏見稲荷との関係も興味深い。
- やっぱり 自然信仰・土着信仰が、稲荷大神の奥深さの源になっているのだから。
- ◎ 稲荷山の稲荷大神が農耕豊穡をもたらす開拓神。開拓神として ひょっとして鉱物資源との関係があるかもしれないと 山中の釜・土 そして塚や行場にある伝承等々 歩く先で伝承を見ましたが、見つける子ができませんでした。でも 本当に面白い山。
- ◎ 40数年前 伏見稲荷大社に数多くある神社・拝所はどこかで、「開運のたぐいまれ」を受けて、また、お礼参りをした記憶がある。そこを訪ねてみようと思いましたが、開運通を走っている店はありますが、今回はよくわからず。

今回のwalkで、終わりにせず、また ちょくちょく 訪ねてみよう……。霧雨が時折降るが、念願の山科側から京都市内側の稲荷山横断ができました。

一度歩いてみたかった東山36峰の南端 西野山・稲荷山の横断 久しぶりの 東山walk はワンダーランド おもしろいハイクでした



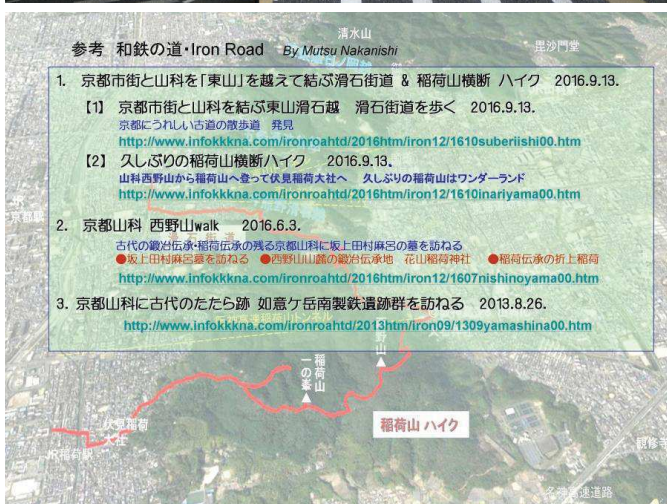
鴨川 京都駅東 堀小橋橋から遠望する東山南端部 西野山・稲荷山 2016.9.13.

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

1. 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道 (開闢街道)
2. 稲荷神降臨伝承の稲荷山三ヶ峯 伏見稲荷大社の参詣道をたどる



阪神高速山科IC・稲荷山トンネル入口 2016.9.13. この左手すぐのところに大石神社があり、稲荷山の登り口。地元の人から「大石神社まで行かずとも、IC横の道をトンネルのところまで登れば、稲荷山への登り口」と教えてもらって、ここから登ることに。



参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

1. 京都市街と山科を「東山」を越えて結ぶ滑石街道 & 稲荷山横断 ハイク 2016.9.13.
 - [1] 京都市街と山科を結ぶ東山滑石越 滑石街道を歩く 2016.9.13. 京都にうれしい古道の散歩道 発見 <http://www.infokkna.com/ironroahtd/2016htm/iron12/1610suberishi00.htm>
 - [2] 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13. 山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド <http://www.infokkna.com/ironroahtd/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
2. 京都山科 西野山walk 2016.6.3. 古代の畿内伝承・稲荷伝承の舞る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる ●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の畿内伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷 <http://www.infokkna.com/ironroahtd/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
3. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26. <http://www.infokkna.com/ironroahtd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>



山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40 舗装道路が左へ直角に曲がる角から、山麓へまっすぐ伸びる小道が登り口。案内板も何もなく、一瞬戸惑いましたが、すぐ奥に入ったところに小さな標識がありました。



山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40

入口には何もありませんが、奥は、しっかりした柵があるよう整備された道が続いていました。



山科IC・稲荷山トンネル横 稲荷山登り口 2016.9.13. 11:40

山腹へ取りつく登り口からは、今にも雨が降り出しそう。霧雨に煙る山科の街が一望できました。



119番通報ポイント番号【1】

稲荷山トレイル 2016.9.13. 11:43

登り口の奥は、すぐ、鬱蒼とした森の中、山腹を登ってゆく整備された登山道に。道脇には、119番通報ポイント【1】標識が立っていました。



稲荷山トレイル 2016.9.13. 119番通報ポイント番号【2】

ついに霧雨が降り出したが、樹木がうっそうと茂る林の中、雨粒は落ちてこない。予報では大雨にはならぬと、気分的にはちょっと重たいが、道もしっかりしているし、距離も短い。それに、頂上からは稲荷大社の参道道。今日はやっぱり、稲荷山を越えて京都にでたい。このままぶらぶら稲荷山を歩けるだろうと。それにしても、麓からすぐに境界の御けぬき峠とした森、稲荷山全体が神域としてまもられてきたからなのだろうか。ふと、異次元の空間に迷い込んでゆくとの思いも感じる。屋根と屋根の間なので余計に暗い。



「稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴」
稲荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年（和銅4年）伊侶具奉公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峯（稲荷山）に三柱の神を祀ったことに始まる。
その理由は伊侶具がお饗を弓矢の的にしたところ、饗は白い鳥になって飛び去り、稲荷山に舞い降り、そこには稲が生えた。（稲成り・いなり）
伊侶具の子孫は、伊侶具の遺志を悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稲荷神社の起源とされており、稲荷山の杉は稲荷信仰の象徴とされている。

そんなイメージで見ると、稲荷山の道筋の杉林は心なしか、密集していて林が暗い。異次元の空間の感じが漂う。霧雨の林の中、雨粒は落ちてこないのですが、蒸し暑く、ポケットの地図も内から濡れて、びしょびしょです。

119番通報ポイント番号【3】 11:51

この周辺は西野山、山科区に属している。
一方稲荷山全体は伏見区で、正確には東西に並び連なる二つの山。
伏見稲荷の神社も稲荷山。
しかし、ほぼ同じ高さの山が連なっていて、全体を稲荷山と観し合っている。



稲荷山へと続く西野山への尾根筋へ登ってゆく ポイント【4】周辺、11:57



谷筋を抜けて、稲荷山へと続く西野山への尾根筋へ登る登山道。境界は明けないが明るい。



みんなでお
京都の山を
大切に
山科区・伏見区・向日市
京都市東山区・京都市南区
京都市左京区・京都市中京区
京都市下京区
京都市東山区・京都市南区
京都市左京区・京都市中京区
京都市下京区

5



119番通報ポイント番号【6】 12:01
山腹を南から登ってきた勤修寺・山科浄水場からの道(左)との合流点
右が稲荷山への道で、稲荷山へ続く西野山の頂上への登り 頂上はもうすぐ上



尾根筋へ登り切るとそこは中央に三角点がある緑の明るい広場
鬱蒼とした森を抜けての明るい空間に心地よい
西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



雨に煙る山科が樹木の間から見え 稲荷山へ続く西野山の頂上も近い



西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



南へ延びる西野山の広い山頂部 林の中に横つもろや塚の立てられている一角が現れる
深い森の中に 突然現れる不思議な空間 2016.9.13.



西野山山頂南部 将軍菩薩とその一角の塚 2016.9.13. 12:12



西野山山頂南部 将軍菩薩周辺 2016.9.13. 12:12
三角点の広場を抜け、南へ延びる西野山の広い山頂部の林の中に横つもろや塚があり、
ちよつと不思議な空間 周辺あちこちに名前も不明な赤い垣や粗上げられた岩がある。
稲荷山も含め、1万を超える塚や祠があるといわれている



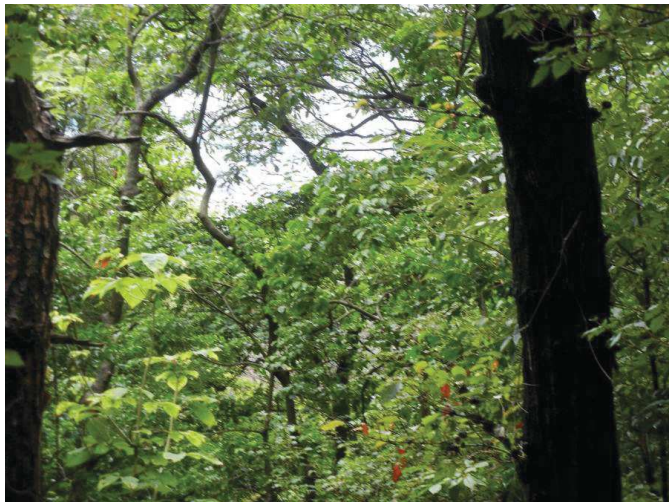
西野山山頂南部 将軍菩薩周辺 2016.9.13.



西野山山頂南側 将軍菩薩周辺 2016.9.13.



西野山から西へ林の中を稲荷山との鞍部へと下ってゆく 2016.9.13.



西野山を西へ林の中を下ると稲荷山との鞍部が見えてくる 2016.9.13. 12:19



西野山と稲荷山の鞍部十字路 2016.9.13. 12:19
左: 深草方面 右: 滑石街道稲荷山北登山口の標識がついた119番情報ポイント【11】



稲荷山頂上への登への道 杉林が続く 2016.9.13.
119番情報ポイント【11】と50番台に代わりました



西野山と稲荷山の鞍部十字路 稲荷山頂上への登への道 2016.9.13. 12:20.



稲荷山頂上への登への道 杉林が続く 2016.9.13.
稲荷山の杉は縁阿倍山の奥に、ずっと奥に隠れているのだろっか...



正面 稲荷山 一の峯への辻 2016.9.13. 12:34

見えてきた鳥居をくぐって 形へ登って行けば、稲荷山山頂一の峯
左に白雪大神・大岩大神へ下る急な石段 また、真っすぐ南へ行くと竹之下達
いずれも伏見稲荷 奥の院めぐりの参道である



稲荷山 一の峯への辻 ポイント【52】 2016.9.13. 12:34

見えてきた鳥居をくぐって 形へ登って行けば、稲荷山山頂一の峯
左に白雪大神・大岩大神へ下る急な石段 また、真っすぐ南へ行くと竹之下達
いずれも伏見稲荷 奥の院めぐりの参道である



伏見稲荷参道図

今回歩くまで よく知らなかった稲荷山の祠・塚そして行場
山中いたるところに こんなに沢山あるのを初めて知りました

辻の反対側は急な海田になっていて 稲荷山・西野山から南へ落ちる谷筋へ続く
稲荷山と西野山の鞍部鞍部のところ、深草方面へ進めばこの下の谷へ出られたようだ。
この谷筋には白雪大神・大岩大神や幾つも行場があるという。



朱塗りの鳥居をくぐると 参道すぐ前方には幾つも鳥居が立ち並び、
右からも赤い鳥居の参道が合流 してその上には樹木を通して空が開けていて、もう頂上まじかである。



右手からは 御膳谷からの稲荷山山ヶ峰回遊参道が合流
して稲荷山山頂へ。
それにしてもおびただしい鳥居にびっくりしました。



稲荷山一の峯近く 杉林の中 おびただしい数の朱塗りの鳥居が頂上一の峯へと続く 2016.9.13. 12:35



石段の続く参道が頂上へ
この参道に入るとさすがに参詣者が多い、それほとんど外人である



鳥居の向こうに稲荷山一の峯の上社が見え、まもなく頂上到達 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13. 12:40



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.

◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://amegao.hatenablog.com/entry/2014/09/01/125701> ほかり

伏見稲荷大社は稲荷大明神の神名化された下祀5社の神々を祭神とする全国に広がる稲荷信仰の中心に位置する総本宮。稲荷山三ヶ峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明治8年(1499年)に本願に合祀された左右の摂社「田中大神」「四大神」一手指殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



伏見稲荷大社 本殿を眺める

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神の五社がまつられ、これら五社の神々の総勢が「稲荷大神」とされている。稲荷神は古く一柱の神のように伝えられていたものが、平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神)が祀られ、やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の形になったと見られている。

稲荷山の山上、三ヶ峰に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稲荷山の神系信仰とも結びついており、今でも一ヶ峰(上之社神蹟=天照大神)、二ヶ峰(中之社神蹟=青木大神)、三ヶ峰(下之社神蹟=白狐大神)の三ヶ峰への信仰を色濃く残しています。(即神蹟とは、太古に神が宿っていた場所とし、また、三ヶ峰の大神は稲荷大明神の神明化された神々として祀られている。)

また、三ヶ峰の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現在の社の見解では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能売大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四大神については由緒不明であるものの、「元は稲荷神と同らかの深い関わりがある地主神、あるいは土着の傾向が濃厚」とし、五社の神を祭神として 伏見稲荷本願に 一手指殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

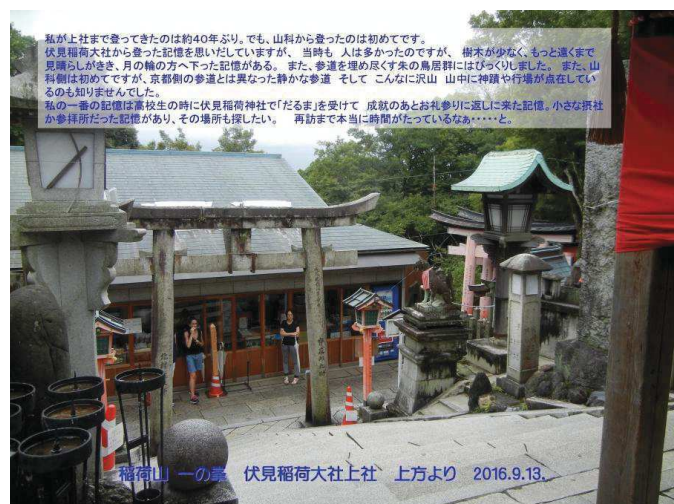


一の峯 上社 二の峯 中社 間の峯 荷田社 三の峯 下社

私が三ヶ峰に登った記憶は遠く学生時代 もっと樹木も少なく、街がみえた。また、鳥居が山上まで 参道を途切れることなく埋め尽くしていることに驚いています。当時も参詣者は多かったですが、今の外人観光客の多さにもびっくりです。



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 2016.9.13.



稲荷山 一の峯 伏見稲荷大社上社 上方より 2016.9.13.



一の峯から二の峯へ 2016.9.13.
鳥居のトンネルの石段を一段下って登り返すと二の峯・中社



稲荷山 二の峯 伏見稲荷大社中社 2016.9.13. 12:50



稲荷山 二の峯 伏見稲荷大社中社 2016.9.13.



二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社がありました 2016.9.13.



伏見稲荷大社・間の峯 荷田社 と 荷田氏

伏見大社の由来についての伊奈利伝承に対して、稲荷神の鎮座を「稲を荷なす老翁」に求める伝承があり、伏見稲荷で豪氏とともに神目を勤めた荷田氏系の伝承と書かれている。

稲荷大明神流記(南北朝時代)による(大意)
『弘治7年(816)4月の朔、弘法大師が肥州田辺の所で身のみ八尺あまりの異相の老翁に遇った。
(これを神と認った)大師は、諸国国家のため密教密傳の道場・東寺において神の加護を待つと告げると、老翁はそれより先には必ず舞臺して大師の法面を看るであろう、と答えた。
嗣て弘治14年(823)4月15日、彼の肥州の老翁が、稲を担い杉の葉を覆ひ、二人の女性と二人の童子をともなうて東寺の南門にやつてきた。
大師は喜んでこれを觀し、遊衍もこれに習った。老翁はしばらく東寺の家に寄留していたが、その間大師は東寺の相山に勝地を定めて17日間鎮座し、稲荷の老翁を神として祀った』とある。

同じような伝承が幾つかあり、もあり、東寺の鎮座神として現存でも伏見稲荷大社と東寺とは深い関係が窺われているといふ。

稲荷大神は稲荷山三ヶ峯に鎮座した際、稲荷に奉祀したのが、荷田氏と云われ、間の峯の荷田社には荷田氏の祖神が祀られている。

インターネット検索まとめ転記

二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社 2016.9.13. 12:54



伏見稲荷 三の峯・下社前 数多くの塚が並んでいる 2016.9.13.



伏見稲荷 三の峯・下社へ 2016.9.13.



伏見稲荷 三の峯・下社 2016.9.13.



三の峯から四つ辻へ 鳥居のトンネルが続く 2016.9.13.



伏見稲荷 お山巡り参道の起点 四つ辻 2016.9.13.



下から登ってきた参道

御膳谷へのお山めぐりの道(逆まわり)



伏見稲荷 お山巡り参道の起点 四つ辻 2016.9.13. 13:01
鳥居のトンネルを抜けると眼前に京都市街地の景色が広がっていました



四つ辻は下から登ってきて「お山めぐり」の起点
「お山めぐり」の参道 御膳谷参拝所を往復してから山を下りることに
通常伏見稲荷大社本殿から奥の院の参道を登ってきて、この四つ辻
から逆時計回りで三ヶ峯を巡ってこの四つ辻へ戻る。
今回は山科から登って 直接稲荷山 頂上に登ったので、一の峯から
二の峯 三の峯を巡って四つ辻に降りてきました。それで 四つ辻
から 三ヶ峯の北側の御膳谷の参道の参拝所まで往復してから 稲
荷大社に行くことにしました。



御膳谷へお山めぐりの道(逆まわり)の参道を下りる 2016.9.13. 13:04
白旗の祠のつぎには先ほど通り抜けてきた三ヶ峯への木の鳥居のトンネルが見えてくる



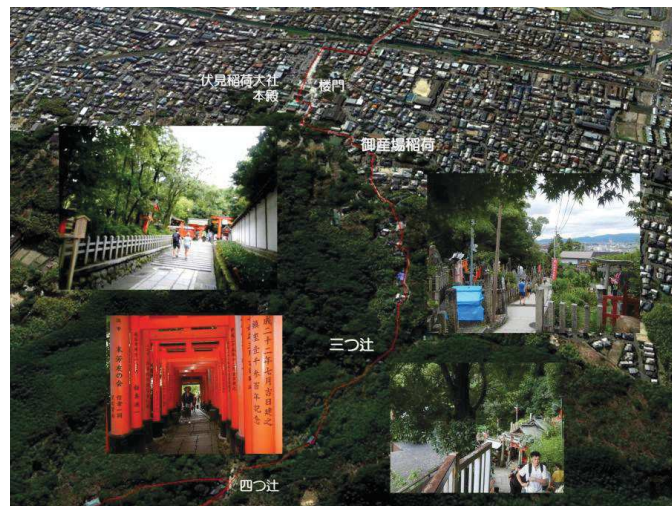
御膳谷 奉拝所 御膳谷神蹟 三ヶ峯の北後背地に当たる場所 2016.9.13. 13:11

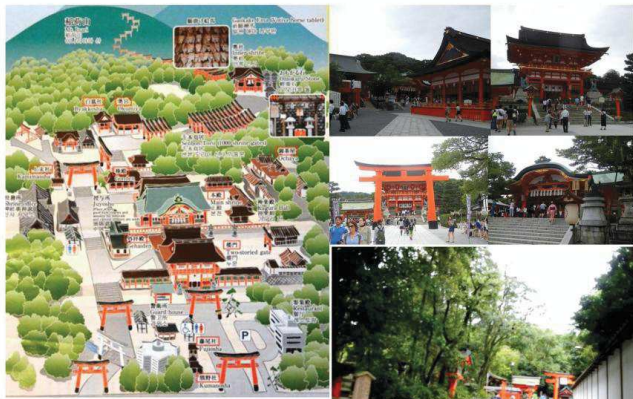


御膳谷 眼力社 2016.9.13.



御膳谷 奉拝所 三ヶ峯の北後背地に当たる場所 御膳谷神蹟周辺 2016.9.13.
台地の上にはたくさんの方々が参拝した





三の峯から参道を下って伏見稲荷大社の境内に戻ってきました。
2016.9.13. 13:45
山科IC横の食り口から約2hrで 伏見稲荷の楼門前に到着です。
雨も途中であがってよかったです。
稲荷大社にお参りして 全行程完了に。



伏見稲荷大社 楼門前 参道 2016.9.13.



伏見稲荷大社 楼門前 参道 2016.9.13.



伏見稲荷大社 本殿 2016.9.13.



伏見稲荷大社 外拜殿より本殿 2016.9.13.

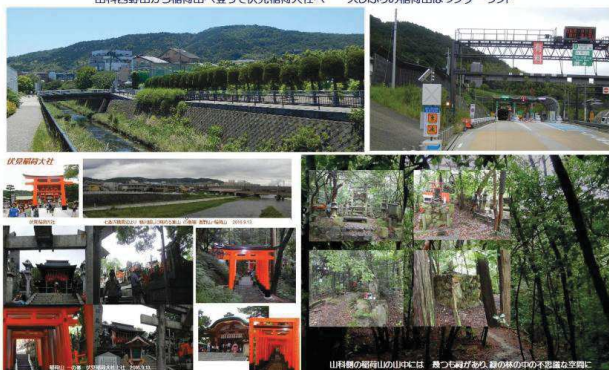


伏見稲荷大社 多くの人でいっぱい正面西参道 2016.9.13.



一度歩いてみたかった 東山36峰の南端 稲荷山の横断 2016.9.13. (左上写真:ワンダーネットより)
山科 西野山から稲荷山へ登って 伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした

山科からの帰り 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13. 山科 西野山から稲荷山へ登って 伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド



もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた特異な空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がつづく。昔から、伏見稲荷への参詣する多くの人がたどった道。神さんの岡や塚として行儀が数多く散在する摩訶不思議なワンダーランド。一体幾つあるのだろうか? 初めての山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。また、京都府 伏見稲荷神社本殿から三ヶ峯へ続く三ヶ峯神社、お山回りの参道は町々をめぐりおびただしい数の美しい鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。平日にもかかわらず 三ヶ峯への参道を登ってくる人はほとんどが外人の観光客。さすが、日本一の外人観光客のスポットに。たくましく山を登ってくる外人たちの姿に、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……。霧雨が時折降りてきて曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。



一度歩いてみたかった 東山36峰の南端 稲荷山の横断
山科 西野山から稲荷山へ登って 伏見稲荷大社へ
久しぶりの稲荷山は ワンダーランド でした

鴨川 京都駅東 堀小路橋から遠望する東山南端部 西野山-稲荷山 2016.9.13.

久しぶりの稲荷山 初めて歩いた伏見稲荷参詣道稲荷山横断 walk

- ① もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。私の古い記憶の山とは随分 イメージが違ふ。知っているようで知らなかった山に。
山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた特異な空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がつづく。昔からの稲荷の化身としての神さんの岡や塚として行儀が数多く散在する摩訶不思議なワンダーランド。一体幾つあるのだろうか? でも 今は山中の自然に溶け込んで、今はやりのパワースポットか? 初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稲荷の御神体山であることを体現させてくれる。
- また、京都府 伏見稲荷神社本殿から三ヶ峯へ続く三ヶ峯神社、お山回りの参道にも たくさんの塚や祠。もとは朱の鳥居をさめ、古くからの稲荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。昔 登った塚と随分イメージが違って、戸惑いも、本当にすごい。
- 赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。
- 平日にもかかわらず 三ヶ峯への参道を登ってくる人はほとんどが外人の観光客。さすが、日本一の外人観光客のスポットに。
- でも、たくましく山を登ってくる外人たちの姿に、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも……。
- ② 知らなかった山科から稲荷山へ登れば、もう これで 稲荷山がわかると思ってはしたが、山中稲荷神社や谷間に至り濡らされた参詣道の多さとその趣所にある塚・行儀。まだまだ 知らぬところも 数知れずある。そればかりか、稲荷伝承も色々。興味深い。稲荷大社と杉との関係も初めて。東寺・空海と伏見稲荷との関係も興味深い。やっぱり 自然信仰・土着信仰が、稲荷大神の奥深さの源になっているのだろう。
- ③ 稲荷山の稲荷大神が農耕豊穡をもたらす開拓神。開拓神として ひょとして鉱物資源との関係があるかもしれないと 山中の峯・土 そして塚や行儀にある伝承等々 歩き先々で観察を見ましたが、見つからずでした。でも 本当に面白い。
- ④ 40数年前 伏見稲荷大社に数多くある摂社・参拝所とどこかで、「開運のだるま」を受け、また、お礼参りをした記憶がある。そこを訪ねてみようと思いましたが、開運達磨を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今日のwalkで、終わりにせず、また ちょくちょく 訪ねよう……。霧雨が時折降りてきて曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。

2016.9.13. 鴨川七条大橋で 鴨川越しに東山を眺めながら by Mutsu Nakanishi

稲荷山横断ハイク walking Map 伏見稲荷大社へ ← 稲荷山三ヶ峯 ← 山科に横登山口から



参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

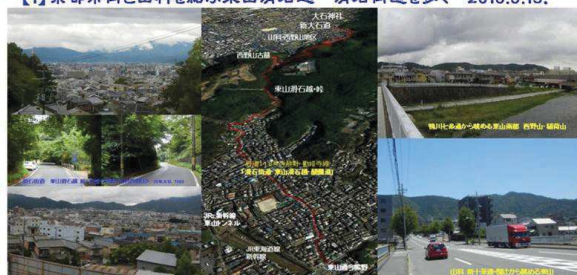
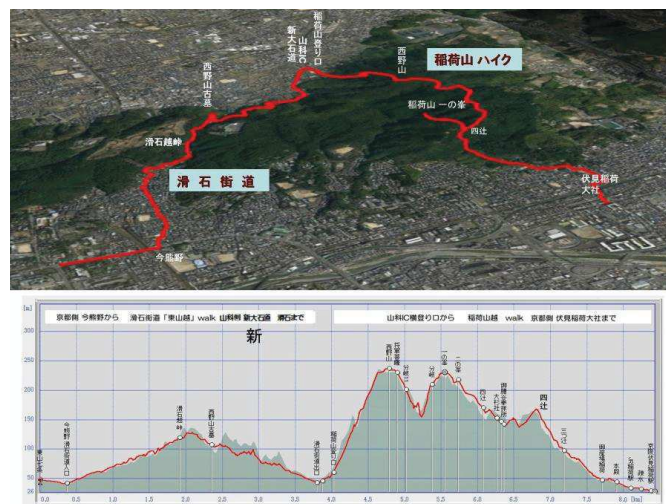
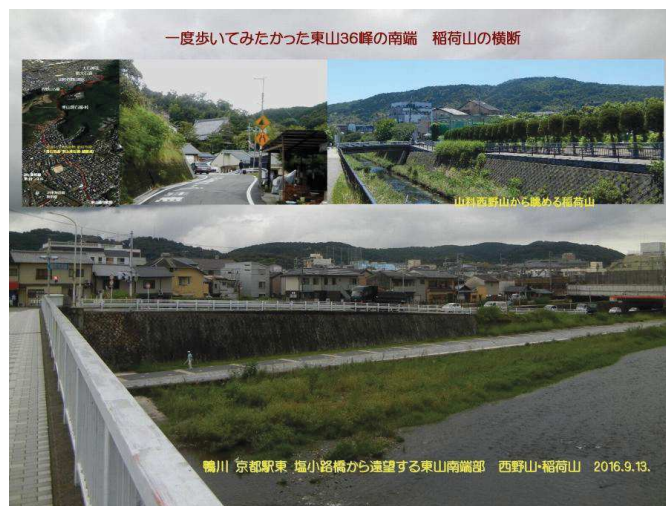
- 京都市街と山科を「東山」を越えて結ぶ滑石街道 & 稲荷山横断 ハイク 2016.9.13.
[1] 京都市街と山科を結ぶ東山滑石越 滑石街道を歩く 2016.9.13.
京都にうれしい古道の散歩道 発見
<http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1610suberishi00.htm>
[2] 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.
山科西野山から稲荷山へ登って 伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド
<http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
- 京都山科 西野山walk 2016.6.3.
古代の畿内伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の畿内伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷
<http://www.infokkna.com/ironroahd/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
- 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26.
<http://www.infokkna.com/ironroahd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

【追補】 2つに分けて掲載した 9月13日の京都東山越往復walk

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

- 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道 (開闢街道)
- 稲荷神降臨伝承の稲荷山三ヶ峯 伏見稲荷大社の参詣道をたどる





最近、山科西山昇降を歩いていて知ったJR東山トンネルの上を越えて京都と山科を結ぶ東山滑石の滑石街道(丙2118号今野動物園特線)。かつては京都と山科を結ぶ関道として、京都で最も古くからたどられて、東山と越えて山科に入り西野田の古き(古き)東山(藤原氏の)本拠地であり、坂之上田原の墓もある。また、悲龍窟大石蔵の傍らに、主龍臣の古跡といわれるところでもある。

この東山滑石と相尋ねると「龍窟」の大小も異なる。いま「歴史をたどる道で、滑石街道の名前には主神様があらわれるだろう。」「滑石街道」の古名は「悲龍窟の秘室を修める大石内蔵助が、放浪を続け、毎夜毎夜、東山・西山の道を通して 龍窟へ見えて来た」に、より付いたことでは滑石を渡ることに悩んだことかもしれないといわれる(大石も滑る→すべり)街道と呼ばれるようになったという。何らかしと歴史が通って来ていると聞いていたが、意外にも庶民の感覚のネーミングでした。

また、曲がりくねった狭い道の両側にびっしり今熊野の家並みがゆずりて続いた生活道路。古い時代から住み継がれてきた生活道路。三条通日岡峠、五条通東山越の道が、幅の広い車道が走る幹線道路に對して、びっしり東山越。それも、東山越今熊野から東山越を登るとより、さらに坂原まで約30分です。また、約30分です山科の街へ。約1時間、急げばもっと短い時間で、京都と山科の壁「東山越」を越えらるなど本当にいい。

昔も今もずっと 車に邪魔されずに歩ける庶民の道「滑石街道」なんだと。
観光客の雑踏もなし 車にも邪魔されず、山から眺める景色も独り占め。京都にうれしい古道の散歩道 発見でした。
小粒の雨がちらついています。やっぱり このまま大石神社の横から稲荷山に登って 伏見稲荷大社へ参拝して帰ることに

2016.9.13. 山科 滑石・新大石道で たどってきた滑石街道の道を眺めながら Mutsu Nakanishi